

大阪 **患者中心の医療**の最前線
 ～患者発データ、患者の満足度の診療・処方への影響を
 いかにマーケティングにとりこむのか～

今や「患者中心の医療」は単なるスローガンではありません。

- ✓ インターネットの普及に伴い、病識・薬識を向上させた患者の増加
 - ✓ スマートフォン等の普及に伴う患者自身の記録（PHR：Personal Health Record）の広がり
 - ✓ 医療者サイドでのPRO（Patient Reported Outcome）重視の傾向
- などの変化を映じて、現実として、患者の状態（病状や治療効果認識）、患者の満足度や意向が、医師の診察、指導、処方に与える影響が次第に広さ・深さを増しています。
- 今後ますます「患者中心の医療」にシフトしていくとみられる日本市場において、医薬品・医療機器等のマーケティングがどうあるべきか、最新の情報を提供しつつ、ご一緒に議論を深めていける場を設けたいと存じます。

2016年5月11日（水）13:30～17:00（受付13:00～）

参加費：無料（先着80名様） ※定員に到達次第、締め切らせていただきます

場所：コンファレンスプラザ大阪御堂筋 御堂筋線「本町」駅徒歩約3分

【プログラム(仮：今後変更される可能性がございます)】

1. 基調講演：「在宅医療の現場とICT活用」

- 姜 琪鎬（みどり訪問クリニック院長、名古屋市立大学医学部臨床教授）
- 来る超高齢化社会に備えて、地域包括ケアシステムの構築が急がれている。このシステムの重要な要素が在宅医療と多職種連携である。在宅医療におけるICT活用とは個別性を重視した「支える」医療を実現させるためである。陥りがちな、ICT導入を目的化させないための留意点について述べる。また、ICT活用による多職種連携の要諦についても解説する。

2. 腎臓病領域における患者と医療者のコミュニケーション

- 宿野部 武志（株式会社バイシエントフード代表、じんラボ所長）
- これまで45年に亘りCKD・慢性腎不全患者として医療と関わってきた自身の体験と、他の患者との交流の中から腎臓病領域における「患者と医療者のディスコミュニケーションの実態」と「治療成功や患者の満足度のカギを握る患者と医療者とのコミュニケーション」について考える。

(休憩)

3. 患者起点の次世代マーケティング - 医療消費者理解による市場の発見と創造 -

- 紫竹 宏亮（㈱アンテリオ ファーマ・ソリューション事業部 リサーチディレクター）
- 情報化社会の進展から、患者自身の環境変化と共に患者の意思決定の場が多くなってきている。「インテリジェントデータ」により、患者を“普通に生活するが医療も消費する人（＝医療消費者）”として広く理解を深めることにより、既存とは視点を変えた戦略を考えていく。

4. PHRサービスの実態とマーケティングへの実践～生活習慣病からがん領域まで～

- 高橋 朗（㈱ウェルビー 執行役員/疾患ソリューション事業部長）
- バイタルデータや主観的な症状評価など患者自身による記録（PHR<Personal Health Record>）が診療に及ぼす影響が増すなか、生活習慣病やがん領域などでの臨床活用事例、製薬企業等のマーケティング/セールスへの活用事例を紹介。また、今後のサービス展開構想の共有を通じて、患者中心の医療とマーケティングを考える視座をご提供する。

5. パネルディスカッション「患者中心の医療とマーケティングを考える」

- 高橋 朗（㈱ウェルビー 執行役員/疾患ソリューション事業部長）※ファシリテーター
- 姜 琪鎬（みどり訪問クリニック院長、名古屋市立大学医学部臨床教授）※パネリスト
- 小松 恒彦（帝京大学医学部 血液内科 教授）※パネリスト
- 宿野部 武志（株式会社バイシエントフード代表、じんラボ所長）※パネリスト
- 紫竹 宏亮（㈱アンテリオ ファーマ・ソリューション事業部 リサーチディレクター）※パネリスト
- 上記に加え、医師、製薬・医療機器メーカー関係者など調整中。

※敬称略

【登壇者プロフィール (敬称略)】

姜 琪鎬 (かん きほ) (みどり訪問クリニック院長、名古屋市立大学医学部臨床教授)

泌尿器科専門医として臨床現場に携わった後に、米国にてMBA取得。その後、株式会社ケアネットのチーフ・メディカルオフィサーとして、医師向けの教育動画コンテンツの企画・制作及びDVD化・ネット配信を統括。2012年に名古屋にて訪問診療専門のクリニックを開設。2015年より名古屋市立大学医学部臨床教授として医学生の地域医療実習を指導している。

小松 恒彦 (帝京大学医学部 血液内科 教授)

筑波記念病院血液内科科長として、白血病治療の標準化、がん化学療法でのDPC対応クリティカルパス作成を行う。2006年帝京大学第三内科助教授、2010年同教授。2009年より帝京大学ちば医療センター情報システム委員会委員長および医療システム部副部長を兼任。日本医療情報学会、米国臨床腫瘍学会、欧州がん総会等で電子カルテデータベースを用いた研究成果を発表し論文文化している。

宿野部 武志 (しゅくのべ たけし) (株式会社ペイシェントフード代表、じんラボ所長)

3歳で慢性腎炎に罹り、18歳から透析を導入し、現在30年目。病気の方へのサポート、そして長い間患恵を受けてきた医療に貢献することが自身の人生のミッションであると確信し、14年間勤めたソニーを退職。社会福祉士国家資格を取得して社会福祉協議会にて相談業務・ボランティアコーディネーターの仕事を経験した後、2010年に株式会社ペイシェントフードを設立。病気とその治療を通して得た経験や気づきをもとに、患者向けWebサイト「じんラボ」の運営、製薬企業や医療者・患者を対象に講演、コンサルティング等を多数行う。

紫竹 宏亮 (株式会社アンテリオ ファーマ・ソリューション事業部 リサーチディレクター)

2006年株式会社インテージに入社し、2007年から株式会社アンテリオ (旧 ティー・エム マーケティング株式会社) に勤務。2014年より現職。2015年4月にインテージのコンシューマーヘルスケア事業がアンテリオと統合したことを受け、「Rx+OTC融合ソリューション特命プロジェクト」のリーダーとなり、両領域をカバーするからこそ提供できるサービスやソリューション検討・提供を行なう。

高橋 朗 (株式会社ウェルビー 執行役員・疾患ソリューション事業部長)

日本銀行において景気動向の調査・予測 (エコノミスト)、中小エアツールメーカーの企業再生を経営企画担当役員として主導、楽天(株) 楽天マーケティングジャパン事業・経営管理部長、ウェルネス・ヘルスケア事業部長などを経て、2014年より現職。グロービス・マネジメントスクール非常勤講師。

【主催】

(株)アンテリオ

担当: 経営企画部 林

東京都千代田区神田駿河台4-6

御茶ノ水ソラシティ 13F

TEL: 03-5294-8393(代表)

FAX: 03-5294-8399

URL: <http://www.anterio.co.jp/>

(株)ウェルビー

担当: 高田/川崎

東京都千代田区神田神保町3-7-1

TEL: 03-6261-3525

FAX: 03-6261-3526

Email: seminar@welby.jp

URL: <http://welby.jp/>

申込方法

下記URLのWebsiteにアクセスいただき、必要事項 (氏名、会社名、部署名、電話番号、メールアドレス) をご入力の上、お申し込みください。事務局から追ってご確認のメールをお送りいたします。

<http://goo.gl/forms/np7IEzgxyf>

【会場】

コンファレンスプラザ 大阪御堂筋

地下鉄御堂筋線
地下鉄中央線
地下鉄四ツ橋線

「本町」駅徒歩3分

